

200300 名山巡り 2018/9/14/金-16/SUN

天然杉とブナ林を抜けて・大平山 1,170m

お花畑と笹の原を抜けて・和賀岳 1,439m

温泉と竜胆と岱を抜けて・乳頭山 1,478m

啄木の故郷の山に向ひて・姫神山 1,124m

山の虫クレマントクラブ (略称 YMCC) 川原健一 同行：川原薫

三田から 800km あまり走った先、狭いながら舗装された長い林道のどん詰まりに大平山登山口駐車場はあった。駐車場奥のトイレは清潔な水洗式だ。その真ん前に車を止め、車中泊した。

9月14日 金 晴れ

大平山



広い駐車場にただ一台。今日は新調の靴を下ろす。

登山口からすぐに渡るべき橋は壊れて跡形もない。迂回をズボラして渡渉しようと試みるが、沢の水量と飛び石の感覚が見事に微妙で、渡れない。連れ合いが靴を脱いで渡ろうと提案するが、それは面倒くさいと迂回を選択。何のことはない、わずかな上流に迂回の橋はあった。

広い登山道をほぼ水平に宝蔵岳取り付き尾根まで歩く。天然杉やブナの樹林を楽しみながら登ると軽井沢尾根に出た。風が心地よく、やがて宝蔵岳に至るが、それらしき山頂を認識せぬ間に通り過ぎてしまった。鎖場を 2、3ヶ

所通過すると大平山頂の神社の鳥居が見え、それを潜ると山頂についた。ガスのため生憎展望は良くない。



丸い山座案内板を見ながら、晴れていたら見えるはずの山々の方向を指さす。

神社にお参りして早めの昼食とする。風が吹いて寒いので、山頂に建てられた綺麗な小屋に入る。管理人がいて、中の土間の休憩スペースは無料ですよ、と宣う。有り難く使わせていただく。中も綺麗な佇まいで、2、30人は泊まれそうだ。明日から連休なので泊まりの客があるのかもしれない。管理人は何やら料理をしている。

晴れそうもないので、管理人に礼を述べ、記帳して小屋を後にする。下り方向が時折見えるが、なかなか趣のある風景だ。少し下ったところの峠で登ってくる小屋関係者らしき人に会う。箒とネギを背負ったユニークな出で立ち。彼が言うには、この辺りは午前中はガスが湧くが、午後から晴れるのだという。僅かしか下っていないが、最早引き返す気はさらさらない。



大平山三吉神社奥宮の鳥居から軽井沢尾根を望む

登山口まで下る間に幾人かの登り人とすれ違ったが、多分丁度いい時間に彼らは展望の山の山頂に至るのであろう。君らに幸あれ。

登山口にはこんなに登っていたかなと思うくらい駐車していた。さすがは300名山、人気の山なのだ。下山後、麓の展望風呂に入り、和賀岳に向かう。

旭又登山口P 10:10

12:04 大平山 13:00

御滝神社

15:18 旭又登山口P

和賀岳への林道は未舗装で、落石による転石もあり、雨でも降ったら帰りが心配になるような佇まいだ。終点は車20台程は停められそうな広場で、臭いのしないトイレ付きの避難小屋がある。我々は車中泊するので小屋は利用しない。暗くなると満天の星が輝き、明日の天気を約束してくれた。そうそう、なんとこの山奥でワンセグの電波が入り、カーナビのTVが映るのは驚きであった。

9月15日 土 晴れ

和賀岳

駐車場を出てすぐに後続の車が広場に来るのが見えた。和賀岳への尾根取り付きの甘露水口で山師の格好の男性が追い付いてきて、取り付きを通り過ぎて、林道を先に進んでいく。舞茸が

採れる、と彼はいう。釣りにしろ、キノコ採りにしろ、ワクワクとした心を抑えながら急いでそこへ向かったのはいつのことだったか。最近そんな気持ちになったのはいつだろう？今か！？

ブナ林を抜け、滝倉の水場を通り、避難小屋跡を見て薬師岳に至ると、登山道は緩やかになって、展望が開けてくる。薬師平までは夏ならば見事なお花畑が見られるところだろう。花々の咲き乱れた跡が窺える。その中に名残の花々、ハクサンイチゲ、ハクサンフウロ、見事な紫色の竜胆。

そういえば避難小屋跡の少し先にはサワフタギの木があり、瑠璃色の実をつけ、登山道にも散らばっていた。瑠璃色には心躍らされるような懐かしさがある。

ところで、もともと和賀岳はニッコウキスゲの花が人で、その時期の登山道は多くの人で溢れ、登山口の駐車場も一杯になるとのこと。

薬師平から見通しの良い長い稜線が和賀岳山頂まで続く。草刈り機でせっかく刈られた笹が登山道を埋め、歩きにくい。



和賀岳へ続く笹の稜線を望む

今日も登山者は少なく、後から登ってきた一人が私たちを追い越していったのみ。あと二人、後から来ていた人たちは途中で立ち止まり、登山道脇に残置してあった草刈り機を使い、登山

道整備を始めたようだ。エンジンの音がした。

山頂は静かなもので、先に登った一人が帰り、後から一人、別ルートに登ってきたのみ。雲海が広がり、岩手山の山頂を時折ガスが巻くが、概して良い景色。秋田駒、明日行く予定の乳頭山と姫神山、田沢湖、鳥海山が指呼の間。



和賀岳山頂から田沢湖方面を望む

下山時は多くの登山者とすれ違う。さすがは200名山、花のシーズンか過ぎても人気の山である。

真木林道終点P 10:10
12:04 和賀岳 13:00
15:18 真木林道終点P

帰りの林道は道路工事で夕方まで通行止めとのことだったが、あっさり通過。温泉に入り、角館と大曲間の道の駅なかせん泊。この道の駅は「どんぱん節」発祥の地とのこと。隣接道路の通過交通は多いが、駐車場は静かで、快適に過ごすことができた。

9月16日 日 晴れ

乳頭山

300名山・乳頭山へ向かう道路は何故か混んでいる。道路端に「田沢湖マラソン」の看板。あ〜、よりによって引っかけたか〜。まあ、そんなに急ぐわけでもなく、また、車は流れている。秋田駒へ向かう道路を過ぎ、乳頭

温泉バス停脇の駐車場に駐車。支度を終えて行こうとすると、ここは従業員が停めるから、と後から来た車が温泉宿の人に言われている。我々は？帰りに温泉に寄ってください、とのこと。



乳頭山麓の孫六温泉のたたずまい

孫六温泉郷から黒川温泉郷を経、沢沿いの登山道を歩く。途中、引き返してくる登山者一人、道がなくなったとのこと。そんなことがあるまいて。先に行くと彼はついてくる。なんだ、笹が被っているだけだ。途中、見事な温泉が湧いていて、プールになっている。思わず入ろうとしたが、湯上りの後がしんどかろうと思いなおし、踏みとどまる。湯温は44、45度か？熱い。



野趣満点の野天天然素掘り温泉。一本松温泉だっこの湯

沢から離れ、登り続けるとやがて展望地に着いた。乳頭山は指呼の間。北側の崖が切れ落ちていい眺めだ。1、400m 辺りまで来ると平坦な道となり、見事な竜胆ロードとなる。頻りに写真を撮りながら山頂に向かう。



乳頭山北面の懸崖

山頂はここも大展望で、陽光を反射する笹原と蒼く輝く池塘群、それを取り巻く草紅葉が見事だ。

帰りは元の道を探らず、湿原・田代岱コースを選択。田代平山荘横の池塘にたおやかな乳頭山が映る景色は秀逸であった。

乳頭温泉バス停P 10:10
 12:04 一本松温泉だっこの湯 13:00
 15:18 乳頭山
 田代平山荘
 蟹場分岐
 乳頭温泉バス停P



乳頭山と池塘に映る逆さ乳頭山

姫神山

明日は天気が良くなさそうなので、予定通り今日、姫神山に登ってしまおうと盛岡方面へ走る。姫神山に近づくとつれてその山頂はだんだん低くなる。

登山口の駐車場には多くの車が停められている。みんな登ってきた人たちで、今から登るのは我々のみ。



下界から見る姫神山

えっ、今朝、乳頭山登って、今からここを登る？昨日、和賀岳登った？(その前は大平山です、とは最早言えない)。えっ、奥さんも！

トイレの前で会話を交わした人があきれられる。(そんなものかな?) アホですわ。自虐を垂れて、歩き始める。

姫神山は200名山だが、標高差が小さく、よく整備されて、歩行時間も短いので多くの人達に親しまれているようだ。事実、老若男女がこの時間になっても下山してくる。



姫神山の山頂

山頂まで樹林が続く。山頂近くの登山道には大きな石が多く転がっているが歩きにくいことはない。隣り合った二つの神社(祠)を過ぎると山頂に出た。

山頂は広く、雄大だ。正面(南側)に風力発電の風車がグリーンの中に浮かんでいる。頂にも大岩があって、暑い西日を遮って影を作っている。その向こうに今朝登った乳頭山。姫神山との間の平野には石川啄木の故郷・渋民の町がある。

ふるさとの山に向かひていふことなし
ふるさとの山はありがたきかな

啄木が詠んだ山はこの姫神山か、あるいは岩手山か？父なる山岩手山、母なる姫神山という説がある。どちらにしても彼の眼に映った山々は彼に生きる力を与えたに違いない。

元来た道を下り、登山口駐車場に戻る。あれほど停まっていた車は一台も見当たらず、私たちの車だけがポツンと残されていた。時間を忘れて遊んだ子供の頃の癖が未だに抜けない。

一本杉登山口P 10:10
12:04 姫神山 13:00
15:18 一本松登山口P

明日の天気予報は雨。本日まで車中三連泊だったので、急遽ホテルを予約。夕方遅くまで遊ぶ私たちが相手してくれる宿が盛岡の街にまだ残っていた。その夜は盛岡の街で打ち上げ。翌日は念願だった盛岡の町歩きをした後、1,000kmの帰り道に就いた。



盛岡市街から北上川越しに岩手山が見えた。

